

<p>こほろぎの籠<small>こも</small>れる穴は 雨ふらば落葉の戸も てとぎせるらしき ながつかたかし 長塚節</p>	<p>鶏頭は冷たき秋の日 にはえていよいよ赤く 冴<small>さ</small>えにけるかも ながつかたかし 長塚節</p>	<p>街をゆき子供の傍<small>そば</small>を 通る時蜜柑の香せり 冬がまた来る きのしたりげん 木下利玄</p>	<p>牡丹花は咲き定まり て静かなり花の占め たる位置のたしかさ きのしたりげん 木下利玄</p>
<p>春の鳥な鳴きそ鳴き そあかあかと外の面<small>おも</small>の 草に日の入る夕べ 北原白秋</p>	<p>石崖<small>いしがけ</small>に子ども七人腰 かけて河豚<small>ふぐ</small>を釣り居<small>を</small>り 夕焼小焼 北原白秋</p>	<p>葛<small>くず</small>の花 踏みしだか れて、色あたらし。この 山道を行きし人あり 釈迢空</p>	<p>沓<small>くつした</small>下ゆ出<small>い</small>でたる指を 生き物の如く見て 居り。悲しむにあらず 釈迢空</p>
<p>ただひとり吾より貧 しき友なりき金のこと にて交絶てり 土屋文明</p>	<p>吾<small>わ</small>がために君が買ふ 朝の海老五疋虹のご とくに手の上にあり 土屋文明</p>		

いくたびも雪の深 さを尋ねけり  正岡子規	柿くへば鐘が鳴 るなり法隆寺  正岡子規	から松は淋しき 木なり赤蜻蛉  河東碧梧桐	浴衣著てあぐら かくそれぎりなの だ 河東碧梧桐
たんぽぽたんぽぽ 砂浜に春が目を開 く おぎわらせいせんすい 萩原井泉水	みどりゆらゆらゆ らめきて動く暁  おぎわらせいせんすい 萩原井泉水	やせうま 瘦馬のあはれ機 嫌や秋高し  きじよう 村上鬼城	冬蜂の死にどころ なく歩きけり  きじよう 村上鬼城
くろがねの秋の風 鈴鳴りにけり  飯田蛇笏	雪山 <sup>せつざん</sup> をはひまは りるるこだまかな  飯田蛇笏		